

縄文土器作り教室

縄文時代の人々は、粘土を加工して、土器を作っていました。

土器は食べ物を、煮る、焼くといった調理、加工をするためだけではなく、食べ物の保存や盛り付けを行うための器としても使われていました。

それ以外にも、縄文時代には神々を祀ってお供えものを捧げる文化ができはじめており、供物を並べる器としての役割もありました。

青森県の三内丸山遺跡では甕のような形状の土器や、楕円形のカプセルのような土器が発掘されています。

これらの土器には人骨が埋葬されており、土器が祭祀目的でも使われていたことがわかりました。

考古学担当職員のお話や本物の土器を参考にして夏休みの自由工作、自由研究に、自分だけの縄文土器を作ってみませんか。

保護者の皆様へ

このプログラムは、縄文時代の土器をモチーフにして、子供たちに、先人の土器づくりに対する知恵や工夫、労苦を肌で感じる事を目的としています。さらに、親子のふれあいを通して、親と子が協力して一つのことを成し遂げるといった貴重な体験をする機会となりますので、是非ともご参加ください。

- 会場 富士山かぐや姫ミュージアム 陶芸室
- 日程 令和元年 8月10日(土曜日)
- 時間 9時～12時
- 参加料 1組 1,200円
- 対象 小学生とその保護者 ※5年生以上の小学生は1人でも参加できます。
- 定員 12組
- 作品引渡し 8月25日(日曜日)から
- 申込み 先着順。7月26日(金曜日)9:00～ 直接、または電話でお申込みください。

持ち物：汚れてもよいエプロン、タオル